

■ Vol.1 (2009 年)

- No. 1 ARDS
- No. 2 Sepsis
- No. 3 AKI
- No. 4 不整脈

■ Vol.2 (2010 年)

- No. 1 重症感染症
- No. 2 CRRT
- No. 3 外傷
- No. 4 急性心不全

■ Vol.3 (2011 年)

- No. 1 Infection Control
- No. 2 モニター
- No. 3 栄養療法
- No. 4 急性肺炎

■このたびの東北地方太平洋沖地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

■いわゆる「正坐」が、唯一作法になった正式な坐り方ではなかったのだ、ということを示してくれた、集英社新書『日本人の坐り方』（矢田部英正著）に以下のような文章を見つけました。

『そもそも「何のためにルールがつくられているのか」という事の本質を問う姿勢が失われると、マニュアルにある条項だけが絶対的な基準になってしまう。そうすると、本来市民の自由と安全を守るための「ルール」もたちまちの内に「偶像」と化し、その枠組みのなかで人々の思考と行動を硬直化させていく。…「これこそが正しい坐です」という基準が定まってしまうと、それ以外の坐り方は「正しくない」「不作法である」という風にイメージは連鎖して「崩し」や「寛ぎ」の自由が奪われていく。』
モニターとは何の謂いか、お楽しみください。

広告一覧 (五十音順)

医学書院…349, 353
エドワーズライフサイエンス……表 4
第一三共…i
南江堂…180
フクダ電子…表 2
羊土社…202

特集：栄養療法

栄養療法を行うには、まず第一に“エネルギー投与量（必要エネルギー量）”を決定し、次いで三大栄養素（糖質・タンパク・脂質）の配分、さらにタンパク・脂質の組成や微量栄養素（ビタミン・微量元素）の投与量に関する検討を行います。したがって、“エネルギー投与量”が定まらないうと、栄養療法を適切に立案できないということを意味します。しかしながら、侵襲下にある患者に対する至適なエネルギー投与量を算定することが極めて困難であるため、第一段階で栄養療法の最適化は頓挫してしまうことになります。重症患者の栄養療法に関する最新のガイドラインを読み解いてみても、侵襲下の栄養療法は確固たるエビデンスに裏打ちされたものではなく、expert opinions とならざるを得ないことがわかります。このような現状においては、自らの思考回路を働かせ、理にかなった対応を選択していく必要があります。そこで、本特集では、現時点で最良と考えられる栄養療法を理論的に立案することを可能にする“最新の知見と考え方”を提示します。

1. 侵襲下の栄養療法は未完である：栄養療法の本質、効果と限界

筑波大学大学院 人間総合科学研究科 消化器外科 寺島 秀夫・米山 智

2. 代表的ガイドラインからの標準治療を知る

Part 1: ASPEN guidelines, ESPEN guidelines, Canadian clinical practice guidelines の比較

神戸市立医療センター中央市民病院 麻酔科・NST 東別府 直紀

3. 代表的ガイドラインからの標準治療を知る

Part 2: ASPEN guidelines, ESPEN guidelines, Canadian clinical practice guidelines の比較

山梨大学医学部 救急集中治療医学講座 針井 則一・松田 兼一

4. 侵襲下の内因性エネルギー供給を考慮した理論的エネルギー投与法の提言

寺島 秀夫

5. 血糖管理 Tight Glycemic Control (TGC) の理論：

高血糖が有害事象を発現するメカニズムとインスリン療法のメカニズム 大分大学医学部 麻酔科学講座 岩坂日出男

6. Tight Glycemic control “TGC” の臨床：諸問題と実践的対応法

岡山大学病院 集中治療部 江木 盛時

7. Pharmaconutrition（または Immunonutrition）

東京大学 医学部 手術部 深柄 和彦

8. Synbiotics

大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部 清水 健太郎

【コラム】Bacterial translocation：概念の変遷と最新の考え方

防衛医科大学校 外科学講座 岡本 耕一・小野 聡・長谷 和生

【コラム】低アルブミン血症に対するアルブミン製剤投与の是非：

アルブミン生理作用からの考察

国際医療福祉大学病院 救急医療部 篠澤 洋太郎

【コラム】エネルギー源としての脂肪乳剤投与：最近の知見と本邦の現状

新潟大学大学院医歯学総合研究科 消化器・一般外科学分野 小山 諭

【コラム】重症病態の栄養療法における NPC/N の意義-NPC/N にエビデンスはあるのか？-

武庫川女子大学 生活環境学部 食物栄養学科 雨海 照祥

【コラム】重症患者において、経腸栄養療法を早期に開始し、target goal に達するコツ

東別府直紀 寺島 秀夫

9. あとがき

※誌面の都合により、内容が変わることがあります。

Vol. 3 No. 2 2011 年 4 月 1 日発行 (年 4 回 (1,4,7,10 月 1 日) 発行)

ISBN978-4-89592-962-2

INTENSIVIST

1 部定価 (本体 4,600 円+税)
年ごめ予約購読料 18,480 円
(4 冊 税込み・送料弊社負担)

発行者 若松 博

発行所 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-28-36

電話：編集部 03-5804-6056 FAX：編集部 03-5804-6054

販売部 03-5804-6051 販売部 03-5804-6055

URL：http://www.medsj.co.jp E-メール：icc@medsj.co.jp

振替：東京 7-28572

印刷所 横山印刷株式会社 電話 03-3622-6161

広告取扱 メディカルブレイン 電話 [東京] 03-3814-5980

日本医学広告社 電話 [東京] 03-5226-2791

福田商店広告部 電話 [大阪] 06-6231-2773

【COPY】<社出版者著作権管理機構 委託出版物>本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に社出版者著作権管理機構 (電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@copy.or.jp) の許諾を得てください。

・本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込み、送信 (送信可能化権を含む) に関する許諾権は弊社が保有しております。